No.18
February
2002
Tokushima
Prefectural
Museum

徳島県立博物館友の会会報

アワーミュージアム

第 18 号　2002 年 2 月 10 日発行

「青い線」てなあに？

篠原（しのはら）　明美（あけみ）（友の会会員）

『アワーミュージアム』17 号に私達が住んでいる石井町白鳥の江戸時代の絵図が紹介されました．10 才の娘は「この青い線って何？」と質問してくるので「現地に行って見てみよう」と子供たちをさそってみました．8 才の息子は「150 年前の我が家を見てみよう」と誘（さそ）うと目を輝かせて「探検だ！」と遠足気分でリュックにお茶やお菓子をつめていました．

まず現在の住宅地図から今の白鳥地区を写し取り道路を合わせてみました．しかし一致しない所が多く，比較的一致する水路や地区堺を目安に歩いてみることにしました．すべての用水路と思われる位置と大きさや幅，また 11 月現在において水が流れているかどうかも調べました．村人の信仰の対象となった石碑や地蔵も記入しました．舌洗（したらい）用水は少なくとも 1589 年には水当番があったという記載があったので，それ以前につくられたと考えられます．その用水に今も水が流れているのを目にした時は，我々の祖先の偉大さに驚かされました．線路ができ途中で進めなくなった所もありますが，水路の分岐点や地区名もほとんど 500 年前と変わっていませんでした．

白鳥神社に目を向けると，子供会のゲームで神社の鐘をならしてくるというのがあったそうです．子供たちの感想は「くねくねした階段にぼろぼろの神社だ」というものでした．絵図にはまっすぐな石の階段に立派な建物が描かれていました．1200 年も前に建てられた神社で広さもかなりあったようですが，今はその面影（おもかげ）すらありません．唯一大きな鳥居だけは今でも健在です．団地ができるまでは白鳥地区の子供たちはラジオ体操も神社前で行っていました．地元のひとには親しみをこめて呼ばれているこの神社も手入れする人もいなくなりつつあるようです．

下の息子はもっぱら自宅のことに興味をもっているようで，「どこが昔の僕の家なの？」と地図を見ています．我が家のある場所は，当時「中山弥平太」という人の領地のようでした．右左衛門という人が住んでいたようです．お米もたくさん

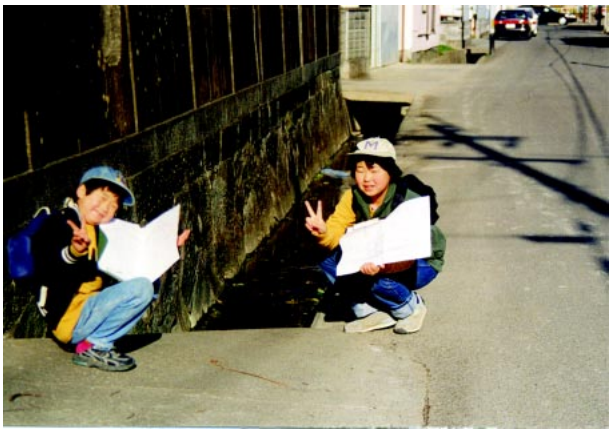
石碑を調べる

探検地図を手に

取れたのでしょうか．おじいちゃんのいっていた本家にはわらぶき屋根の家がありました．「うちの祖先は庄屋だったんだぞ」という話も疑わしいなと思うけど，今となってはおじいちゃんもいないので調べることはできません．150年前に住んでいた人はどんな服を着て，水路がはりめぐらされた豊かな土地でどんな暮らしをしていたんだろうと子供達と話しています．社会の教科書に袋井用水がおよそ300年前にでき麻名用水が100年前にできたと書かれていました．舌洗用水は500年も前にできており，かつて松茂村の埋め立てに第十堰が手本になったようにこの白鳥地区が理想郷だったのだろうかと想像したりもしています．

この小さな探検を通して自分のすぐ足もとに立派な500年以上も続く用水があり，千年以上も続く神社があることを知りました．これも時代の流れか，今は全くかかわらず過ごしています．農業に関する事柄についてもさほど関心がありません．だから用水も汚れ，山も荒れるのでしょう．いろいろなことに感心をもち，今度は別の面から白鳥を見直したいと思います．石井町探検もいつかやってみたいと思います．

朝早く地図を片手に親子で犬にほえられながら歩いていますが，決して怪しい者ではありませんのでご安心下さい．◆



水路を探検中

近づいていく楽しみ

萬宮　千鶴子（友の会会員）

イスカ（萬宮翔平撮影）

ノグルミの梢に小さな影が動いている．5羽か6羽か，目を凝らしてもはっきりとしない．急いで双眼鏡の焦点を合わす．

「あっ，赤い鳥！イスカ！イスカだ，イスカだ，よく来た，よく来た」とつぶやいている自分に実は少なからず驚いている．

野鳥の会の会員になったころは，小鳥の姿はもちろん見えず，鳴き声も耳に入ってこなかった．「コマドリが鳴いたよ」と，言われてもキョトン．「ヒガラが来てますよ」と，指されてもキョロキョロ，なにがなにやらわからず，あせりながら感心ばかりしていたのだった．

今も鳥のことを知っているわけではないが，以前に比べると，身近な鳥の名前をいくつかは正確に言えるようになった．それはとてもうれしいことで，林の中や川のほとりを歩く楽しみがうんと深いものになった．

図鑑で調べたり，先輩方から教えてもらったりしていろいろなことを知っていくのは，実にうれしい．

冬鳥のイスカがマツやスギなどの実が好きなこと，嘴に特徴があること，大川原高原くらいの寒さを好むことなどなど．また，同じ赤い冬鳥のベニマシコが低木林や林縁，低木林のある草原にいることなど．夏鳥のオオルリが大好きな実で，秋の渡りの途中によく集まるのがミズキやクマノミ

コマドリ（萬宮翔平撮影）

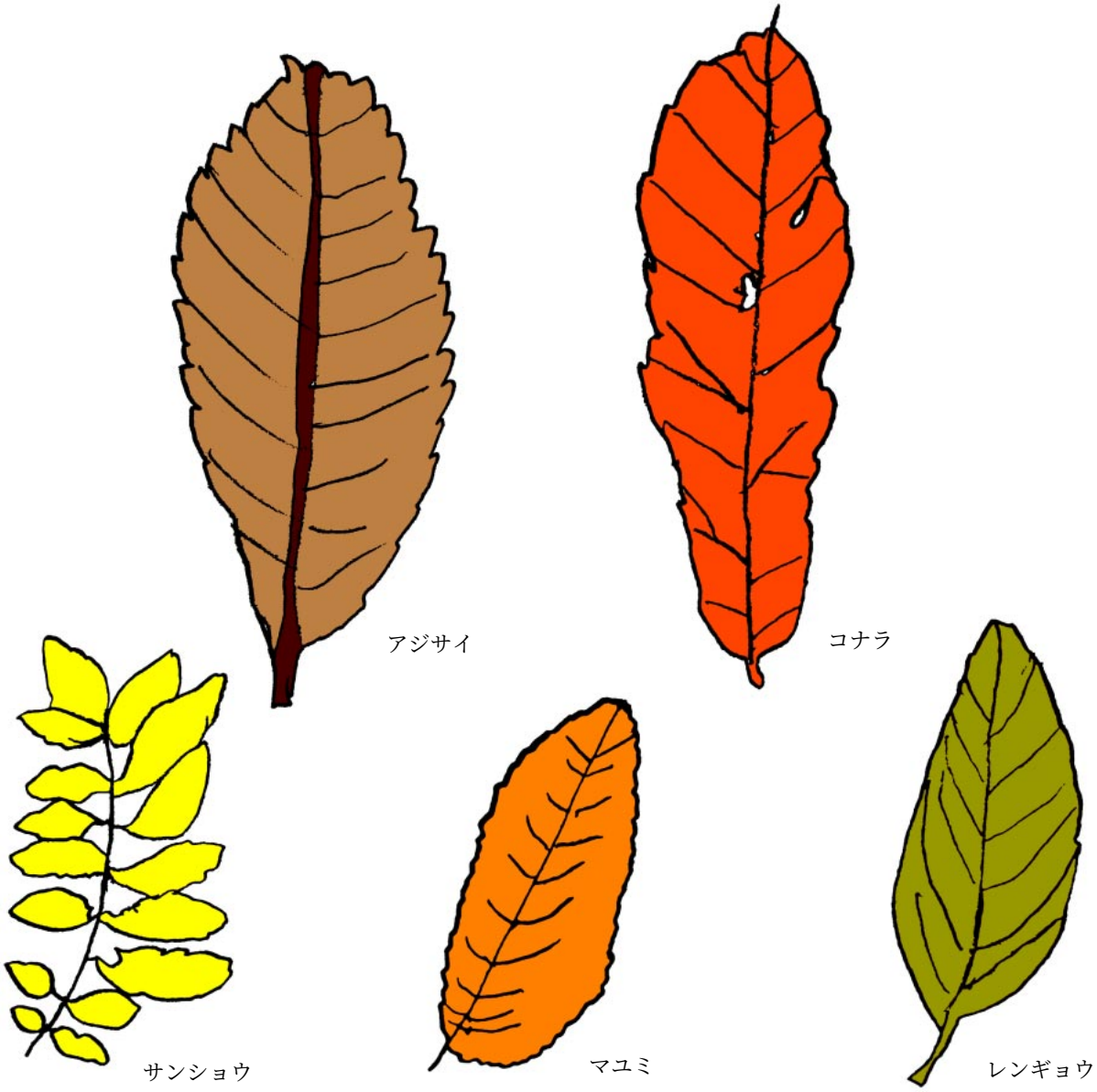
ズキだと教えてくれたのは先輩のMさんで，山のことに実に詳しい．

ミズキやクマノミズキがどのような場所を好むかを教えてくれたのはＷさん．Ｗさんは実に博学なのだ．

土と植物と動物が深くふかくつながり，そのつながりを知っていくことの面白さを身をもって教えてくれる．博物学という世界のあることを教えてくれている．

虫食いの１枚の葉っぱを持っていくと，「近くに，きっとラミーカミキリがいたはずですよ」などと，さりげなくつぶやいて，私達をとりこにしてしまう．

私達の世界が不思議に満ちて，どこにだって何にだってワクワクドキドキの元があるのだなと，落ち葉を拾っても，見とれてしまうこのごろなのだ．◆



落ち葉のスケッチ集（by まみやはるか）

博物館紹介17

徳島県立鳥居記念博物館

西田　素康（友の会会員）

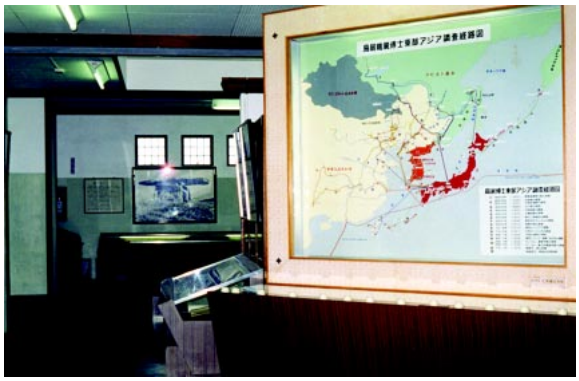
鳴門市の中心部を流れる撫養川の東に，小高い妙見山が見え格好よいお城がそびえたつ．鳴門市民の大半が朝に夕に仰ぎ見ている天守閣様式の城，それが徳島県立鳥居記念博物館である．徳島県が生んだ世界的な人類学・考古学者でかつ民族学の権威であった鳥居龍蔵博士（1870～1953）の業績を顕彰するために建設されたものである．

鳥居記念博物館のある妙見山頂は，古くから桜の名所として県民から愛された風光明媚の地で，博物館展望台からは東に淡路島，北に小鳴門橋・大鳴門橋を，西から南にかけて鳴門市街の全貌はもとより吉野川下流の肥沃な平野と徳島市街が一望される．

この鳥居記念博物館は３層からなり，２・３階が展示室となっている．鳥居博士が生涯をかけて収集された資料や研究物・遺品などおよそ200点ほどが展示されている．２階は内蒙古にある遼の皇帝陵の棺内にあった大小二つの木偶（日本の埴輪に当たる）や，契丹貴族のものと推定される頭蓋骨，遼代文化の遺物としては最高の緑釉の各種瓦，明代の青馬鏡など中国考古学上貴重なものが展示されている．３階は千島アイヌの羽毛衣装や人形，南米インカの彩文土器が陳列されている．

圧巻なのは縦横各2.5mの大図板である．鳥居博士が探検調査した遼東半島・中国東北部をはじめ，東部シベリア・中国西南部・台湾・千島列島・モンゴルなど調査経路が一目でわかる押しボタン台で，スライドによる説明にあわせて調査地域も豆電球が点灯するようになっている．

記念館裏にあるドルメンは明治28（1895）年，25歳の博士が遼東半島で発見したドルメンを模した墓で，博士夫婦が静かに眠られている．阿波名産の青石で造られたもので，その前には初代館長・仁科義之氏（当時の県教育長）の筆になる墓碑銘がある．◆



鳥居記念博物館の外観と展示室

鳥居龍蔵夫妻の墓

徳島県立鳥居記念博物館

●開館時間	午前９時30分～午後４時30分
●入館料	一般　240円（団体　120円）
	高校・大学生　120円（団体　70円）
	小・中学生　70円（団体　50円）
●休館日	月曜日、第１火曜日、祝日の翌日
	12月28日～１月４日
●所在地	鳴門市撫養町妙見山公園
	TEL 088-686-4054

友の会行事報告

園瀬川探検（第５・６回）

第５回は９月24日（月），第６回は12月９日（日）にそれぞれ実施しました．河口から少しずつ上流へと遡（さかのぼ）ってきましたが，ついに徳島市から佐那河内村へと足を踏み入れました．

今回の「アワーミュージアム」では，２回分の記録・感想をまとめてお届けします．

― 第５回 ―

畦の植物観察

天候にも恵まれ，過去最高の19名参加，田中の集落まで車．歩き始めて間もなく，主任学芸員の小川先生が急に白い花の咲いた草むらの中に入られた．フジバカマを見つけられた．このことが後日徳島新聞にカラー写真入りで「環境省のレッドデーターブックで絶滅危惧（きぐ）植物に指定されているフジバカマが…今月24日に博物館友の会が開いた野外調査行事『園瀬川探検』に小川さんが同行し発見した」と大きく報じられた．秋の七草の一つで有名な花が絶滅危惧植物とは知らなかったし，手に取ってみることができ感動した．

田中の集落

馬頭観音碑

享和元年の地蔵さん．地神（じじん）さん．馬頭（ばとう）観音．北向かいの地蔵さんなどの建立の時代，信仰，伝承，位置の変遷など，地元の方にお話を聞きながら調査する．耕地整理，道路拡張整備などで位置が変わっているものもあるが，地域の方の生活の中に深く根付いているように感じられた．

昭和60年ごろ，爆発的人気を呼んだアマチャヅル，成分が朝鮮人参（にんじん）とかわらないと言われ，当時１キロ8,000円ほどで飛ぶように売れたというが，間違って採取する人も多いと言われていた．常々そのアマチャヅルを確認したいと思っていたところ，田中の集落の近くに，よく似て間違うヤブガラシとアマチャヅルが一緒に生えているところがあった．先生の説明で違いがよくわかった．

田中の砂灸（すなきゅう）．勝野政一さんのお宅で250年前から続いており６代目．箱に入れた砂に足型をとり，藁（わら）しべで中心を測りモグサを据える．彼岸の中日に阪神方面からもバスで1,000人近くの人が来るということだった．

天王神社で昼食．整備された神社で森の中はいたるところにオオハンゲの群生がみられ，回り123cmものウバメガシの大木が３本もあった．

午後は園瀬川に沿って，尾境の集落近くまで歩いた．　　（樫原　剛一）

（上）砂灸もぐさ
（左）砂灸藁しべ

― 第６回 ―

●佐那河内村尾境からスタートした今回の探検には植物や野鳥に詳しい方の参加を得て，探検コースの道すがら種々説明していただいたのは大変勉強になった．植物オンチの目から見ると路傍の草木は単なる雑草と雑木にしか映らなかったものが，解説に耳を傾けていると，一木一草が生き生きとして目から鱗（うろこ）が落ちる思いであった．

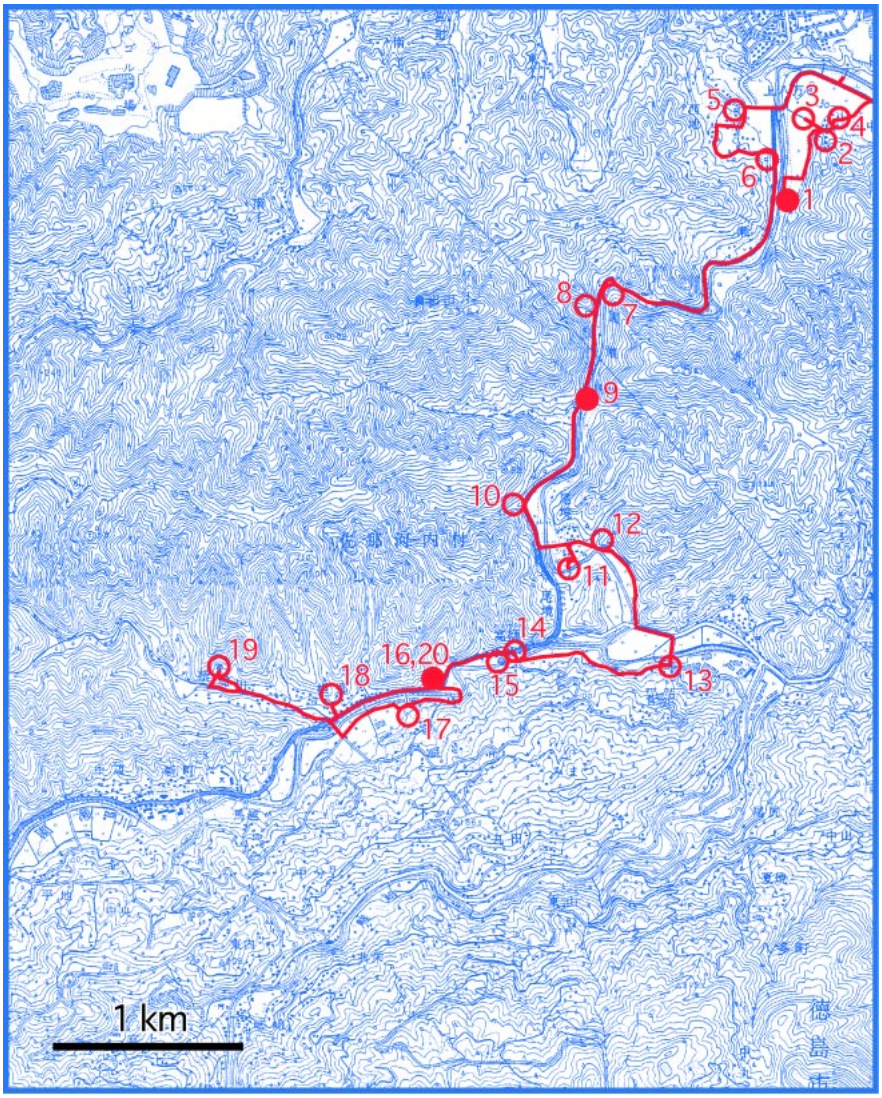
　また，絶滅危惧種といわれ，源流付近の清流の．しかも日光が差し込まない暗い場所にしか生息しないというナガレホトケドジョウの実物を見ることができたのはまことにラッキーであった．

（多田　重利）

●今回，はじめて園瀬川探検に参加させていただきました．普段は，仕事と育児で時間に追われる毎日ですが，このときばかりはゆったりと穏やかな時間を過ごさせていただきました．

尾境橋近くの園瀬川の川原

　普段は目を留めることもない雑草が染料だったり，毎日見るスズメの模様が一羽ずつ異なっていることなど，身近なところでの初めて知ったことがたくさんありました．また，珍しいナガレホトケドジョウや，古墳も初めて見せていただきました．専門の先生方に，歩く道々たくさんのことを教えていただきました．これからの生活の中でも新発見の感動を忘れず，小さな草花，虫などなど目を向けて



ルートマップ(国土地理院1／2万5千地形図「石井」･「阿波三渓」より)．
　1～　9：第５回ルート．
　9～20：第６回ルート．

1. 田んぼの畔，地蔵
2. 地神，祠，馬頭観音石碑
3. 地蔵堂（北向き地蔵）
4. 田中の砂灸（勝野家）
5. 天王神社
6. 天神社
7. 田んぼの畔
8. 祠（不動明王，千手観音，稲荷大明神）
9. 河原，祠（地蔵）
10. ナガレホトケドジョウ生息地
11. 川原
12. 神社（名称不明），地神
13. 菅沢大橋，石灯籠
14. 御所橋，石灯籠
15. 保健センター，田んぼの畔
16. 大宮八幡神社
17. 根郷農村公園，神社（名称不明）
18. 安喜古墳
19. 観音庵（お庵さま）
20. 新道記念碑

大宮八幡神社

いきたいと思います.

おや, あのカラスはハシボソカラスかな？ハシブトカラスかな？早速探求心に燃える私がいました.　（福崎　さと子）

●夫と共に初参加の私は, 見るもの聞くもの未知のことばかり. 嬉しくて, 子どもにかえってドングリを拾いながら歩く. 薄暗い沢で希少なナガレホトケドジョウが元気に生育しているのが発見され感激. 畦道では初冬にかれんに咲いているタンポポ, レンゲ草の一輪に感動. 大宮八幡神社の梛（なぎ）と乳銀杏の大樹に感嘆しきり. 根郷の観音庵では, 近所の方が由来等を親切に話してくれるのを拝聴. 車で通過するときに気づかなかった園瀬川の豊かさにふれた１日でした. ありがとうございました.

（奥村　文重）

安喜古墳の外観（下）と内部（左）

●今回は動植物に詳しい和田さんの参加で, 道々, 鳥や動植物の名前を教えていただき, 顔なじみの方の顔と名前が一致したときのようなスッキリ感を味わいました.

道ばたや木々の下の薄暗い場所にフユイチゴがたくさん見られ, 甘酸っぱい味を楽しむことができました.

薄暗い木立に囲まれた小さな流れの中の石の下にひっそりとひそんでいたナガレホトケドジョウが見られ, ラッキーでした.

顔見知りの方との思わぬ同行や地元の方の親切な道案内等, 今回もたくさんの出会いがあり, 参加して本当によかったと思います.（南部　洋子）

●冬日には珍しい好天だった.

尾境の谷間では, 幸運にも絶滅危惧種のナガレホトケドジョウを数匹発見し, 手に取ることもできた. ドジョウは, 泥田や沼地に生息するものと思いこんでいたが, 清流の生息を知り, 不勉強を痛感した.

今回の最大の感激は, 根郷の板碑の移動先を尋ね歩き, 親切な地元のご婦人に案内された庵の存在だった. 庵の中には, 十三仏が壊れかかった小さな伽藍（がらん）に納められ, 今も土地の人々が, 灯明と水と花を供え, 祀り続けている. 外には, 貞享２（1685）年の年号の入った庚申塔（こうしんとう）があり, 土地の人々の信仰の証に感嘆した.　（山地　武彦）

根郷の観音庵

友の会行事報告

秋の研修会　蒜山・大山紀行

本田（ほんだ）　壮一（そういち）（友の会会員）

大山（だいせん）は，学生時代の夏休みに頂上まで登ったことがあります．しかし，蒜山高原（ひるぜん）については，岡山市在住の友人よりバーベキューをするのによい場所だと聞いていましたが，未だ行ったことがなく，今回の研修会を楽しみにしていました．当初は，家族全員で申し込んでいたのですが，息子が体調をこわし，私のみの参加となりました．以下はその旅行記です．

第１日．今回利用した高速道路のうち，高松，岡山，米子（よなご）自動車道は初めてで，15年前の，宇高（うこう）連絡船，JR伯備（はくび）線を経由して米子市へ行った頃より，山陰は格段に近くなったと感じた．途中のバスの車窓を見ながら，学芸員の小川さんの解説，寺戸会長の地理，地誌の解説を楽しみ，蒜山高原へ．徳島県，瀬戸内，山陰地方は晴天であったのに，ハーブガーデンでは，曇りに．山陰の天気は変わりやすい．しかし，曇ったのはここだけでした．独特な山容の蒜山三座のふもとの高原は，大昔火山に囲まれた淡水湖であったと聞く．植物性プランクトンが100メートルも堆積していると聞き，太古の景色に思いをはせた．牧場に寄り，茶色のジャージー牛を見学．宿は温泉があり，空気もうまく，夕食もすすんだ．

第２日．バスで大山中腹へと向かう．南側からまわると，崩落（ほうらく）がはげしく，谷を３カ所ほど渡る．バスを降り，山道を歩くと，ドングリがたくさん．森の栄養か，根がでているドングリをたくさん拾った．ブナ，草花などを解説していただいた．落ち葉の積もった山道を歩くのが心地よかった．大山寺に出て，昼食．中腹の自然科学館から日本海のパノラマに見とれた．帰りに西側から大山を望むときれいな形の山に見え，8合目あたりが紅葉のようだった．

小川学芸員の解説で植物観察

季節を変え，次は花の時期に家族と再訪してみたいと思う．

博物館のホームページを見ると，小川さんはインターネットに詳しく，植物図鑑も公開されており，利用させていただいています．坂本さん，マネージメントご苦労様でした．今後も，家族皆で，友の会の行事に参加しようと思いますので，よろしくお願いします．◆

《事務局からのお知らせ》

ただいま平成14年度の会員を募集しています．現在会員の方も継続していただくには，あらためて会費を納入していただくことになります．所定の振替用紙を利用していただき，継続してご加入くださりますようお願いします．また，お知り合いの方やお友だち等にも声をかけていただき，会員の輪がますます広がりますようご協力をよろしくお願いします．

徳島県立博物館友の会会報
アワーミュージアム
No.18
February 2002
Tokushima Prefectural Museum

第18号
2002年2月10日　発行：徳島県立博物館友の会
〒770-8070　徳島市八万町向寺山　徳島県立博物館内
TEL 088-668-3636　FAX 088-668-7197